

(英語版)

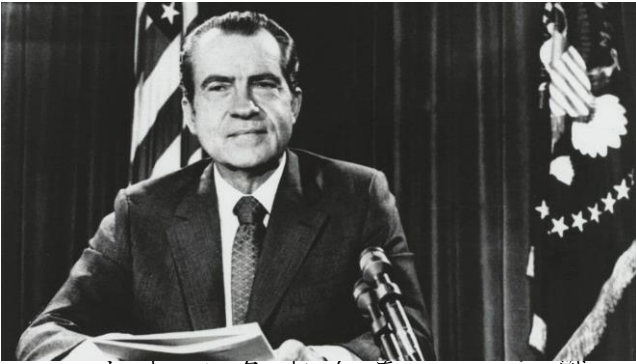
(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年 (八十七)

第4章・中東の戦争と平和 (一)

八十七 東の間の平和…イスラエルとエジプトの和平 (一―三)



第四次中東戦争は1973年十月二十五日に終わった。緒戦の勝利でアラブ側に有利な停戦条件を引き出そうとしたサダトの思惑通りにはならなかったが、ともかくエジプトとイスラエル双方に和解の機運が生まれた。

1948年の第一次中東戦争(イスラエル独立戦争)以来わずか四半世紀の間に四回も戦火を交えた両国は共にすっかり疲弊し、国民の間には厭戦機運がみなぎっていた。中東戦争にうんざりしていたのは当事国だけではない。イスラエルの最大の庇護者である米国もニクソン大統領が経済面で不安定な国際通貨危機に振り回され(1971年、ニクソン・ドルショック)、外交面では泥沼のベトナム戦争から抜けられずに苦悩を深めていた。戦前ヨーロッパのユダヤ人迫害を逆手に取られてこれまでずっとイスラエルの肩を持たされてきた欧州諸国はと言えば、アラブ人やイスラム教徒に加担する気は毛頭なかったものの、我が物顔のイスラエルに対して「もういい加減にしてほしい」という空気が漂い始めていた。

さらに第四次中東戦争でアラブの産油国が石油禁輸を強行したため、これまで中東紛争は無関心、無関係を装っていたアジアの国々には石油ショックの衝撃が走った。特に日本にとつ

ては高度成長という太平の夢を打ち砕く大事件であった。日本を始めとする石油の消費国もアラブとイスラエルの和平を促した。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakazuyai@gmail.com